



地域医療センター
地域医療連携通信

9

SEPT. 2006
Vol. 11

● 外来診療時間 ●

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分
(休診日)
土・日・祝日



ヤ・シィパーク:高知市中部の香南市にある海の公園で、広いビーチときれいな水質をもつ海水浴場として親しまれています。もちろん、この夏も大勢の人で賑わいました。港の堤防ではのんびり釣りを楽しむご夫婦の姿も……。

目次: CONTENTS

- 2 診療科のご紹介 (2/全9回(予定))
小児科のご紹介 (前編)
- 3 1. 循環器・胎児心臓超音波検査
2. 小児血液・腫瘍
- 4 3. 小児外科
- 5 救命救急センター:症例報告「溺水の救命例」
- 6 緩和ケアチームができました
7 ～緩和ケアチームのご紹介
- 8 地域医療連携病院のご紹介・おしらせ

患者さんが主人公の 病院をめざして

高知医療センターの基本理念

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

平成18年9月1日発行
にじ 9月号(第11号)
責任者:堀見 忠司
編集人:地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元:高知医療センター
地域医療連携本部
印刷:共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)



診療科のご紹介

高知医療センター各診療科を8月号より全9回(予定)でご紹介しています。
第2回目は小児科グループ(前編)のご紹介です。

小児科

— 小児科・専門外来 —

循環器・胎児心臓超音波検査
小児血液・腫瘍
小児外科



外来診療予定表 (緑色:外来診療日です。)

外来診療科名	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
小児科										
小児外科										
小児慢性便秘										
小児整形										
小児慢性疾患										
小児循環器										
胎児心臓超音波*										
小児血液腫瘍										
小児神経										
小児内分泌・腎臓										
小児発達										
小児アレルギー										
予防接種										
乳児検診										



*第2・4金曜のみ

医療センター小児科外来の特徴

小児科の診療で最も多い疾患は感染症ですが、医療センター小児科では感染症小児の外来比率は、中央病院時代から比較すると激減しています。その原因として、医療センターの立地場所、初診に関する特定療養費が2,630円必要になり紹介型の病院となったこと(乳児医療で無料の方も紹介状が無ければ支払いが必要)、電子カルテの導入で多数の外来患者さんの診察が困難となったことなどが挙げられます。

外来患者が少なく入院患者を確保できるのか、責任者としては当初大きな不安を持っていました。開院後1年半を経過し、多くの先生方から患者さんをご紹介いただき、入院中心で慢性疾患主体の外来という医療センター小児科の診療が定着してきました。

外来患者数は1日平均60人と少ないのですが、入院患者は月平均25人から40人とまずまずの状態です。新生児の入院は常にベッドがぎりぎりの状態ですが、小児の入院は少し余裕があります。(冬は一時ベッド不足になりました)

【入院患者さん】は、これまでの「にじ」にも掲載されました総合周産期母子医療センターを中心とする新生児とさまざまな疾患を持つ小児疾患患者さんです。新生児は1,000g未満の超低出生体重児や1,500g未満の極低出生体重児の比率が多く、小児の入院疾患は急性感染症が最も多く、悪性腫瘍、先天性心疾患、腎疾患、喘息、川崎病、膠原病など多様です。急

性期疾患で入院した患者さんや喘息の患者さんは、直接あるいは一度外来を受診していただいた後、ご紹介いただいた先生やかかりつけ医の先生に逆紹介させていただいていますので、よろしく願いいたします。

【外来患者さん】は、ほとんどの方が予約で来院され、外来主治医の下で慢性疾患の治療や低出生体重児のフォローアップを行っています。それぞれの専門診療については、担当医が後にご案内いたします。

電子カルテは、発生源である医師がすべての指示(検査、処方、処置、次回予約など)をコンピューター内に打ち出し、それを基に各部署が動くこととなりますので、一人の患者さんに10分程度の診察時間が必要です。待っている患者さんが少ないためか、予約しているのだからという気持ちもあるのか、じっくりと話をして帰られる患者さんが増えました。(患者さんにとって良いことなのですが、医師は話を適切に終了させることがより必要となりました)予約時刻が電子カルテ内に表示されますので、診療の進行が遅れて待ち時間が長くなると焦りの気持ちが出てきますが、時には開き直って自分のペースでそれぞれの患者さんを診察しています。医師が、コンピューターの方ばかり見ているといわれているようですが、手書きカルテとは異なり、そうならないがちです。

紹介の【救急患者さん】は、いつでもすべて引き受けていますので、気楽に外来担当医または日当直の小児科医にご連絡ください。その他の救急患者さんは、救急番日(医療センターは月に9日を受け持っています)には小児科医がすべて診察しますが、それ以外の日には夜間小児急患センターや、その

日の2次輪番病院への受診を勧めています。それでも来院された救急患者さんは、原則として救急担当医が診察にあたっています。

少子化にも関わらず小児医療に対するニーズは高まり、親は24時間いつでも小児科専門医が診察し検査も十分に行うべきだと考えています。これに答えるだけの小児科医のマンパワーはありませんので、小児科や産婦人科の集約化が叫ばれています。また、新臨床研修制度のため、医学部卒業生が大学や地方に残らない状態です。あと2年経過して後期研修3年間で終了すると、都会に収容しきれなくなった若い医師たちがUターンしてくるのでしょうか。大学も行政もいろいろな対策を考えているようですが、現場の私たちとしては、豊富な症例、指導体制の充実、小児科医のやりがいなどを示せば若い人はやって来て、小児科医にもなってくれるはずだと思っ

て頑張っています。医療センターで1年間研修すれば小児科学会の専門医に必要な30症例を経験でき、9人の小児科医から幅広い指導を受けることができます。小児科が医療センターのなかで魅力ある科の一つとなり、医療センターに初期臨床研修医や後期研修医が来てくれるようになれば、高知県の医師確保にも貢献できるとも考えています。(文責:吉川清志)

1.循環器・胎児心臓超音波検査

— 片岡功 —

先天性心疾患の発生頻度は高く、赤ちゃんが100人誕生すればそのうちの1人ないし2人は心臓の病気を持っているといわれます。なかには早期に適切な治療が行われないと生命が危険にさらされ、重大な後遺症を残すような疾患もあります。その一方、心疾患発見の代表的なきっかけとなる心雑音は健康な小児でも半数以上に認められるという統計もあり、病気に伴う心雑音を無害性の心雑音から区別せねばなりません。

川崎病はドラマ「ER」にも登場するほどポピュラーですが、冠動脈合併症をきたすことが知られており、患者数の多い日本では後天的な心臓病変としてとくに重要です。小・中・高校入学時に行われる心電図検診では各種の不整脈が見つかることも多く、治療のみならず運動や生活の管理・指導を行う必要があります。その他、悪性疾患、膠原病、内分泌・代謝疾患、腎疾患、神経疾患など多くの病気で二次的な心疾患をきたすことがあり、使用する薬剤によっても心機能異常が引き起こされる可能性があります。

また、小児期に心疾患に罹患され成人となられた患者さんについても、小児循環器医が継続して診療にあたるケースが多くあります。このように多岐に渡る小児疾患の領域のなかでも循環器部門はとくに高度な専門性が要求され、まさに「患者さんのいのちに直結した」診療を行っています。

現在、小児科循環器スタッフは2名で循環器専門外来を開設していますが、緊急の場合は24時間対応可能な体制としています。とくに、新生児の重症心疾患につきましては、夜間緊急でご紹介・搬送いただくことも多く、新生児スタッフとの緊密な連携のもと「小さないのち」を救うべく日々努めています。

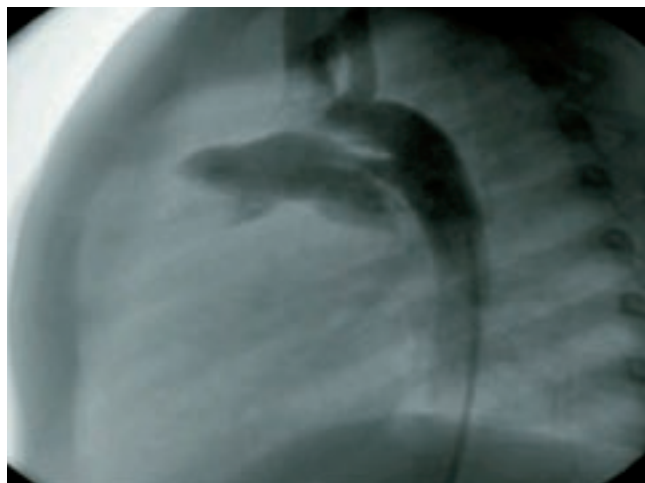
循環器スタッフの2名はいずれも岡山大学で長らく小児循環器診療に携わってきました。また、私はカナダ・トロント小児病院でも心臓カテーテル治療の勉強をしてまいりました。高知県の皆さんに日本のトップレベル、世界のトップレベルに負けない診療ができますよう一層の努力をしてまいります。

具体的な診療の内容といたしましては、心臓超音波(エコー)検査、心臓カテーテル検査などによる診断の他、動脈管開存症に対するコイル塞栓術、肺動脈弁狭窄症に対するバ

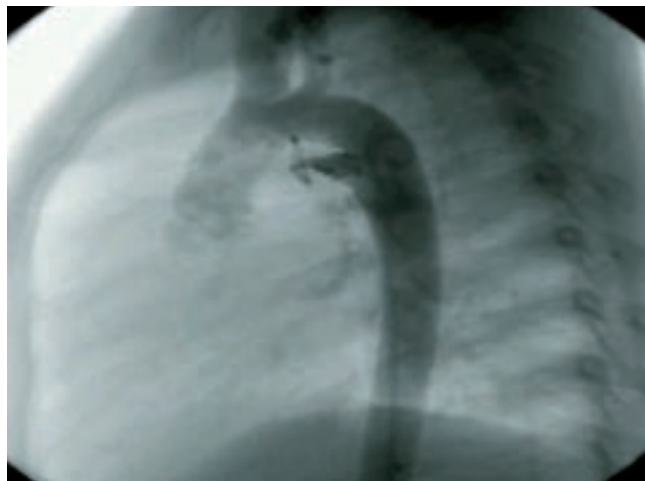
ルーン拡大術などのカテーテル治療も行っています。



(カテーテル治療)



(動脈管コイル塞栓術1)



(動脈管コイル塞栓術2)

心エコー検査は予約制にしていますが、夏・冬・春休みなどには大変混み合い、ご迷惑をおかけすることもあるかと存じます。一人でも多くの患者さんに、より質の高い医療情報を提供することを目標にしていますので、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

子どもだけでなく妊婦さんを対象に、産科医師らと協力し胎児心エコー外来も設けています。疾患によっては出生後直ちに治療を開始せねばならないため、あらかじめ産科・小児科の医師、看護師らでミーティングを開き計画を立て、分娩や治療を行います。正確な早期診断と適切な早期治療により、重症疾患に対する治療成績のさらなる向上をめざしています。

小児循環器・胎児循環器医学の進歩は急速です。私たちス

スタッフは絶えず新しい知識を吸収し技術を磨き、より良い医療サービスの提供に努めています。分かりやすい説明を心がけておりますので、セカンドオピニオンなどでもどうぞお気軽にご相談ください。

2. 小児血液・腫瘍

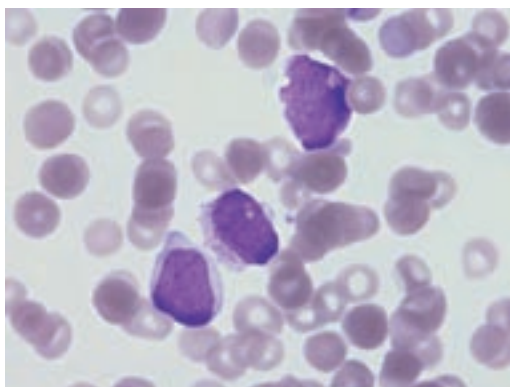
— 西内律雄 —

小児の血液疾患・悪性腫瘍疾患の患者さんを対象とした専門外来を設けています。小児一般外来に多い感染症の患者さんとの接触を避ける目的で、午後の外来でかつ待合は別とされています。

血液疾患としては、貧血(鉄欠乏性貧血・再生不良性貧血・ファンコニー貧血)、白血球疾患(自己免疫性好中球減少症)、血小板疾患(特発性血小板減少症)などの患者さんの診療を行っています。

悪性腫瘍疾患としては、血液悪性腫瘍(急性リンパ性白血病、急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病)、固形腫瘍(悪性リンパ腫、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫、奇形腫など)の患者さんの診療を行っています。悪性腫瘍の治療については、日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)などの、多施設共同研究へ参加し、そこで行われている臨床試験への参加をしています。ここで行われている臨床試験とは、新薬の開発などを目的とした実験的な内容を含むものではありません。今まで地域ごと、施設ごとに細かい部分ではバラバラに行われていたさまざまな診断・治療を全国的な基準で統一し、そこで決められたルールに則って診断・治療を行っています。患者さんはこれらの臨床試験に参加することにより、その時点で最善と考えられる治療を受けることができ、中央診断の実施により、他の施設の専門家の目を通して診断の確かさが保証されます。また、治療計画書に書かれたさまざまな規定に従った治療を受けることによりその安全性が担保され、副作用などの情報を共有することにより、予期し得なかった健康被害を防ぐことができます。

当センターでは小児外科との連携が得られることから、固形腫瘍の症例が多いのが特徴で、過去1年は肝芽腫1、ウィルムス腫瘍1、胚細胞性腫瘍3、神経芽腫1を加療しました。当センターには無菌室2床を備えており、血縁者間適応症例では同種骨髄移植を行います。



(急性前骨髄性白血病細胞)

3. 小児外科

— 佐々木潔 —

小児外科は小児の外科全般を扱う診療部門で、小児科のな

かの一部門である、という誤解をよくされます。

一般の方のみならず、時として当センターのスタッフからも同様の誤解を受けることから、まず、小児外科がどのような疾患を対象にしているのかをご紹介します。

小児外科は、いわゆる「小児一般外科」です。したがって呼吸器・消化器など腹部臓器・皮膚軟部組織などの外科的な疾患を対象とします。泌尿生殖器は普通泌尿器科の守備範囲ですが「子どもは大人のミニチュアではない」という前提から、また、直腸肛門奇形など泌尿器の奇形が同時にある外科疾患が小児の場合多く見られることから、当センターでは主に小児外科医が小児の泌尿器疾患を取り扱っています。

一方、先天性の心臓・大血管疾患は心臓血管外科の疾患で、合指症・多指症や骨折などの外傷は整形外科の疾患で小児外科の対象ではありません。口唇口蓋裂や顔面外傷の瘢痕などは形成外科の対象となります。また、脳神経外科の疾患も小児外科の対象ではありませんが、脳室腹腔シヤントなどの手術では腹部側の手術を協力して行っています。

小児外科についてさらに詳しくは、日本小児外科学会のホームページをご参照ください。

(<http://www.jsps.gr.jp/index.htm>)

当センターの開院から本年7月末までの入院症例数は378例、手術症例数は326例で、このうち新生児は入院症例数21例、手術症例数13例です。この症例数は日本小児外科学会の認定施設の基準をクリアしています。当科が5つのセンター機能の一つである総合周産期母子医療センターの一役を担っていることもあり、母体搬送による待機的な新生児手術のみならず、休日の新生児搬送による緊急手術も対応してまいりました。体重779gの腹膜炎症例に対する開腹術による救命例や、体重1,760gの横隔膜ヘルニア症例に膜型人工肺(ECMO)を装着し、横隔膜ヘルニア根治手術を行った後、ECMOから離脱し得た症例もありました。新生児外科は、新生児科や麻酔科などの医師をはじめ、看護師や臨床工学技士などメディカルの協力のもと、県民の皆さまのご期待に応えられるように体制を整えています。

また、救命救急センターの機能として、虫垂炎や腸重積症などの急性疾患や、転落・交通事故などによる胸腹部外傷にも対応していますので、緊急の症例がございましたら、是非ご連絡ください。

一般小児外科や小児泌尿器科の手術症例は、できるだけ小さい手術創で、侵襲を少なくする工夫を行っています。たとえ手術が成功しても『醜いおなかの傷は心の傷』になりうることを意識して手術を行う必要があります。真皮埋没縫合を行い、傷が皴になるような工夫や、切開部分を臍の中において術後の傷が目立たないような工夫を行っています。乳児の鼠径ヘルニアや臍ヘルニア、年長児も含む包茎などは保存的な治療法を積極的に行い、手術自体をしないで症状が消失する症例を数多く経験しています。

小児の外科的疾患がございましたら、是非ともご一報ください。



次号、第3回は小児科グループ(後編)をご紹介します。

救命救急センター：症例報告

溺水の救命例

15歳の高校生が物部川河口で遊泳中、高波にさらわれました。一緒にいたもう一人の同級生が救助に行きましたが、結果的には二人とも溺れることとなってしまいました。友人がすぐに119番通報し救急隊が駆けつけましたが、すでにかなり沖まで流されていたため、救急隊が消防防災ヘリ(りょうま)による救助を要請しました。

近くで訓練をしていた消防防災航空隊がりょうまで駆けつけ、二人とも救助されました(入電から約6分後)。救助から約2分後、医療センターの屋上ヘリポートへ搬送され、一人は自分で歩けるほどでしたが、もう一人はかなり多量の水を飲んでおり、胸部レントゲン写真上でも肺水腫像をしめし、かなりの重症でした。すぐに集中治療室で人工呼吸管理を中心とした全身管理を開始しました。

順調に回復し5日後には集中治療室から退出、1週間後には元気に退院となりました。今回は通報後、迅速な救助と医療機関との連携が円滑に行われたため、後遺症もなく救命することができました。

平成18年7月、遊泳中流され消防防災ヘリにて救助、当センターへ搬送となる



(高知新聞に掲載された今回の症例記事)



(高知新聞に掲載された今回の症例記事)

入院時胸部X-P



BGA(10酸素リザーバー下)
pH 7.038 PaCO₂ 31.2 mmHg
PaO₂ 95.0 mmHg BE -21.4

搬入時所見

意識 E3-V5-M6= 7(GCS14点)
血圧 130/80mmHg 脈拍80分・整
呼吸数18/分 体温(膀胱温) 36.7℃、
瞳孔径4mm(左右同大)対光反射(+)



処置後胸部X-P



鎮静下に人工呼吸管理を開始。
呼吸状態が安定したため、3日後に
抜管。後遺症を残さず、第6病日退
院となりました。



緩和ケアチームができました

1. 緩和医療・緩和ケアとは？

緩和医療は治療医学、予防医学に次ぐ第3の医学、また21世紀の医学ともいわれています。WHOの定義では「緩和医療・緩和ケアとは、治癒を目的とした治療が期待できなくなった患者さんに対する痛みなどの苦痛症状の緩和を含めた積極的な全人的医療・ケアである」としています。

全人的な医療・ケアとはなんでしょうか？全人的医療とは、病気そのものの症状の治療・ケアだけでなく、患者さん本人の社会面、経済



面、心理面など、その人を取りまく環境を幅広くとらえながら、それらのケアも同時に行う医療をいいます。

2. 緩和ケアの概要および目標

主治医が、がんそのものの治療を行うとすれば、緩和ケアは疾患およびその治療に伴うさまざまな苦痛の緩和を目標としています。医療センターでは、手術、化学療法、放射線療法などの目的で入院されている患者さん・ご家族を対象とする院内コンサルテーション型の緩和ケアを緩和ケアチームが行っています。

がんの治療の経過中には、さまざまな症状がみられることがあります。例えば、がんの手術後の痛みやがん自体の痛み、化学療法や鎮痛薬などの副作用からくる吐き気、便秘など、また不安や不眠などの精神症状もみられ

ることがあります。これらの症状があると患者さん自身にとっては苦痛であり、ご家族にとっても負担となり、ひいてはがんの治療にも支障をきたします。

がんと診断された早期の時点から、緩和ケアチームが主治医や病棟スタッフと協力して患者さん・ご家族のサポートをさせていただくことで、入院治療生活に伴う不安、苦痛などができる限り軽減するとともに、治療終了後の患者さんの、その人らしい生き方を選択するためのお手伝いをさせていただきます。

3. 緩和ケアチームのご紹介

がんの治療中に起こるこれらの厄介な症状は多彩であり、主治医や看護師だけでは対応できないこともあります。そのため、緩和ケアチームはそれぞれの専門分野の医師、看護師で構成され、症状改善に努めています。必要な場合には薬剤師、ケースワーカー、栄養士の方などにもチームの一員として参加していただくこともあります。



自己紹介(写真左より)

●青野 寛(あおの ひろし)
日本ペインクリニック学会専門医
入院生活での痛みなど、患者さんのさまざまな身体的負担が少しでも軽減できるようにがんばります。

●池田 久乃(いけだ ひさの)
日本看護協会認定がん看護専門看護師
患者さん・ご家族の皆さんの不安や悩みを聴かせていただき、一緒に考えさせていただきます。緩和ケアについて、スタッフからのご相談にも対応します。

●藤田 博一(ふじた ひろかず)
精神保健指定医・日本精神神経会精神科指導医専門は心療内科です。病気と向き合うなかでさまざまなストレスがあるかと思います。お気軽にご相談ください。

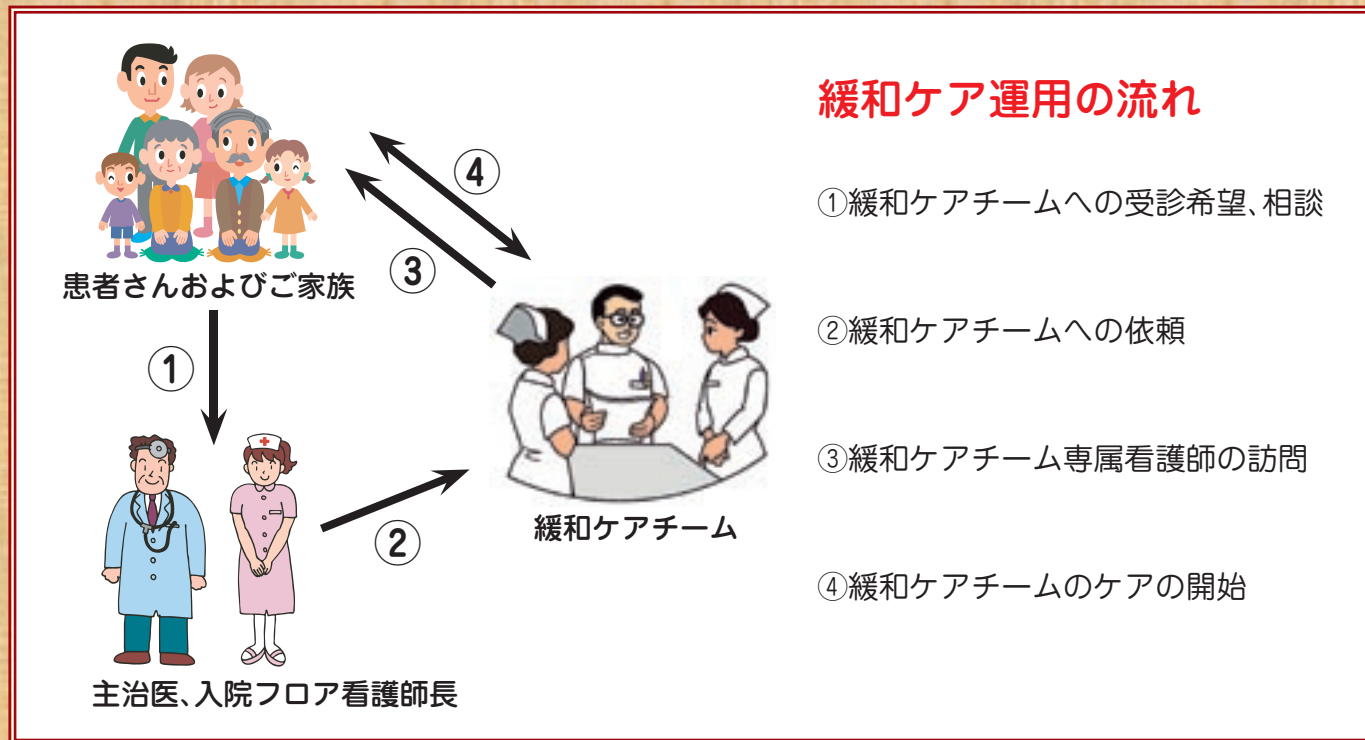


4. 緩和ケアチームへの依頼方法

緩和ケアチームの診療を希望される場合は主治医、または担当看護師長へその旨をお伝えしてください。依頼があれば、専属看護師が依頼のあった当日に患者さん・ご家族のもとへ伺います。専属看護師が緩和ケアチーム

どのようなかたちでご協力させていただくかチーム内でできることを検討します。

依頼のあった当日、または翌日に緩和ケアチームのメンバーが直接入院室へお伺いしてその時点からケアを開始させていただきます。



5. 緩和ケアチームの特徴

急性期病院としての使命をおびている医療センターでの緩和ケアチームの役割は、緩和ケア専門のスタッフや、緩和ケア病棟をもっている病院のように最後まで看取る完結型の緩和医療・緩和ケアとは少し異なります。

医療センターの緩和ケアチームの特徴は、疼痛管理、精神的ケアの専門医、がん専門看護師が同時に加わったチーム医療による短期集中型の緩和医療・緩和ケアであるといえます。

そして、緩和ケアチームは主治医と協力してがん診療に入るときから、緩和ケア的なところ・発想をもって、患者さん・ご家族に接してサポートさせていただきます。そして治療が終了し、転院される場合でも、自信をもって緩和ケアを受けられる病院を患者さん・ご家族に紹介し、納得が得られて転院していただけるように努めます。

6. 院外の患者さんへ

医療センターの緩和ケアチームは、現在のところ手術、化学療法、放射線療法などを目的に医療センターに入院されている患者さんが対象になります。体制が整い次第、活動の範囲を外来まで広げていく予定ですが、それまでは院外の患者さんに対しては、ご相談をお受けすることができませんので、ご了承ください。





医療法人 川村会 くぼかわ病院

〒786-0002 高知県高岡郡四万十町見付902-1
TEL 0880-22-1111/FAX 0880-22-1166
URL: <http://www.inforiyoma.or.jp/kubokawa-hp>

(診療科)

外科・脳神経外科・整形外科・消化器科・呼吸器科
胃腸科・内科・肛門科・放射線科・眼科・循環器科
リハビリテーション科・麻酔科・泌尿器科・皮膚科
形成外科・耳鼻咽喉科・産婦人科・神経内科



左から医療相談室：中村泰久さん、地域連携室：岡村知世主任、医療相談室：岡村祐児さん

くぼかわ病院(172床)は昭和63年4月1日に開院し、平成17年より地域連携室が本格的に活動しています。地域に密着した連携をめざしているいろいろな活動をされています。また附属施設として、「介護老人保健施設アザレア」「附属七里診療所」「訪問看護ステーションくぼかわ」「居宅介護支援事業所くぼかわ」があり、患者さんの入院時から退院を見据えた対応をされています。病診・病々連携だけでなく、地元企業や事業所などへの働きかけもしており、高知市内の医療機関とは少し異なる地域密着型の地域連携のかたちをとっています。今回は地域連携室・医療相談室の岡村知世主任と企画室の小谷潤室長にお話を伺いました。

Q: 地域連携室の構成についてお聞かせください。

A: 地域連携室の設立は平成15年ですが、活動を本格的に始めたのは平成17年です。開設当初は1名で担当していましたので、あまり活動ができませんでした。地域連携室と医療相談室とで協力しながら、現在は3名(内MSW2名)で業務を遂行しています。

Q: どのような活動をされていますか？

A: 業務内容としては、地域連携室で前方・後方連携をしています。その他に対外的な活動として、医療圏内の診療所や療養型病院、施設、在宅関係機関、行政機関、社協、教育委員会、学校、そして企業にも出向き外交的なことを定期的に行っています。

Q: 企業にも訪問されているのですか？

A: サテライトで医師の講演を行い、健康意識の向上をめざしています。企業と病院が関ることによって病院の社会貢献も図れると思っています。企業の方々が当院に来られるのは大変ですので、こちらから医師等が同ってお話をさせていただければ、当院を身近に感じていただけたらと思います。

Q: だから地域医療連携ではなく、地域連携なのですね？

A: そうですね。当院の使命の一つとして、民間病院ではありますが中核病院であるために各方面での関りは大事だと感じています。医療を身近に感じていただくために、各事業所と一緒に何かでき

ないかといういろいろな企画をし、また病院には医師、看護師、栄養士、リハビリスタッフ(理学療法士・作業療法士・言語療養士)などの専門職員がいますので、専門的な話を聞くことによって皆さんの健康意識も違ってくると思いますし、社会貢献にもなると思います。当院の地域連携の特徴としては、病診・病々連携だけではなく、地域とどう関わっていくかということが主流になっているところです。

Q: 医師同士の連携はいかがですか？

A: 普段は先生同士で電話のやりとりをしていますが、どういう診療所から、どういう患者様を送っていただいで、どういう地域へ返していくかということを理解していただきたいので、実際に先生方にお会いしてこういう地域へ患者様を返すんだな、ということを理解していただけるよう当院の医師が診療所に訪問することもあります。また、顔を合わせることで連携がスムーズになっています。

Q: 相談室のMSWはどのような役割を担っていますか？

A: 患者様が入院されると、在宅か施設かのスクリーニングを行い、ご自宅に帰られる患者様に対しては自宅訪問をしています。MSWとリハビリスタッフ、場合によっては看護師が同行し、ご本人とご家族、ケアマネージャーなども同行し家屋評価に行かせていただいています。退院後も必要に応じてフォローをしています。

Q: 今後の課題などは何でしょうか？

A: 今後やってみたいことは、病院からネットワークを作るのではなく、地域住民・団体の方々、ボランティアさんや老人クラブ等の方々など、地域の人たちから考えていただける病院づくりのネットワークを構築して、安心・信頼できる地域づくりをしていきたいと思っています。医療環境は変化しています。ただ患者様をずっと病院で診るだけではなく、医療従事者には患者様が安心してもとに戻っていただける、もとに戻らなくてもそれに近い状態になって帰っていただけるように治療をしたり、リハビリをしたり、地域に帰ることまでを考えていただけるように理解を求めていきたいと思っています。

お忙しいなか、取材にご協力いただきありがとうございます。

お
し
ら
せ

第15回 高知医療センター 救命救急センター救急症例検討会

9月25日(月) 午後5時半～
場所: 高知医療センター2F くろしおホール
テーマ: 産科救急について
お問い合わせは…高知医療センター救命救急センター

インターンシップ学生活躍中!

高知工科大学のインターンシップ(企業実習)の学生さんたちが、医療センター・病院ボランティアグループ「ハーモニーこうち」で8月14日～9月25日までの間、活動をしています。病院ボランティア活動をとおして、コミュニケーション力を高めたい、人間関係やマナーを身に付けたい、実践力を身に付けたいなどが主な志望の動機だそうです。未知の世界との出会いに対する感動の意見や彼らが体験した厳しい指摘など、まさにボランティアとしての役割を果たそうと頑張って活動しています。

編集後記

まごころ窓口で患者さん・ご家族からの医療相談をお受けしている岡林です。医療相談の係わる範囲は、医療費などの経済的問題から医療公費負担、すなわち難病助成制度、身体障害者手帳、障害年金等の福祉関連情報の利用のお手伝い、療養上の不安・心配事、介護保険に関する相談、退院後の生活相談や福祉サービスのご紹介、転院先の病院や福祉施設のご紹介など、とても広範囲に亘りますが、私は看護師の立場から主に療養上の不安・心配事についてのご相談に応じており、受診の仕方から病状そのものについてのご相談まで、窓口のみならずお電話でのお問い合わせも含めて柔軟に対応させていただいております。先生方とのスムーズな医療連携の面でも、少しでも貢献できればと思っています。(医療相談：看護部長 岡林みや子)



広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見等をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>